# 教職支援センター活動報告③
## ―面接指導（幼稚園・保育所・こども園）を中心として―

阿　部　直　美
（教職支援センター特任教授）

### 1．相談利用状況について
1）月別相談利用数

表１　月別相談利用数（2021．２月～11月）

| | ２月 | ３月 | ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | 10月 | 11月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 実数（人） | 11 | 7 | 23 | 19 | 19 | 31 | 25 | 16 | 17 | 17 | 185 |
| のべ数（人） | 14 | 11 | 40 | 38 | 27 | 39 | 38 | 23 | 18 | 17 | 265 |

2021年２月から11月までの相談利用総数（表１）は，のべ265人であった。この数字は昨年度（2020．４月～2020．12月）の相談利用総数のべ130人に比べて著しく増加している状況である。これは，教職支援センターが特任教授３名と教職カウンセラーによる現体制になり，１年間が経過し，学生に一定の認知が進んだことが考えられる。また特任教授が授業科目を担当することで，学生とのかかわりも生まれ，顔が見える指導が可能になったことで，教職支援センターを身近に感じる学生が増えたことも要因として考えられる。
また，今年度も昨年度に引き続きコロナ渦での対応が必要な時期もあったが，昨年度の課題を活かし，Zoom 指導と対面指導を臨機応変に計画し対応できたこと，同時に学生が京女ポータルを定期的に確認する習慣が身についたことで，教職支援センターの LMS での告知が確実に学生に届くようになったことも増加の要因と考えられる。また学生が教職支援センターの予約を取りやすいよう相談時間を変更し，授業時間に合わせて設定したこと，併せて相談時間を以前の学生相談一回当たり１時間から40分間に変更し，１日の予約可能回数を５回から７回に増やしたことで，より多くの学生が相談を受ける機会をもてるようになったことも，影響したと考えられる。

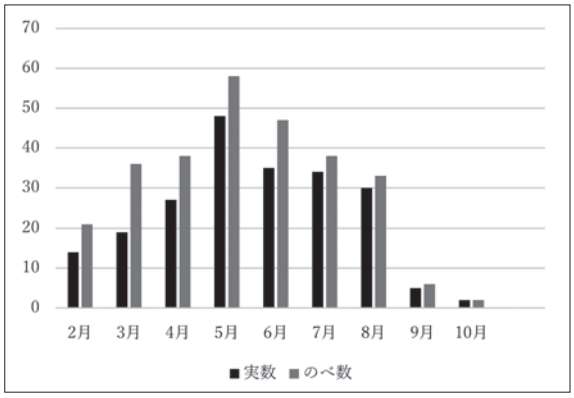


図１　月別相談利用数

課題として，教職支援センター相談利用数の増加に伴い，特に４月から８月にかけて，学生の相談数も増大し，大変過密スケジュールでの相談・指導を続けることを余儀なくされた。学生と共に目標に向かう喜びを感じるとともに，今後もできる限り多くの学生のニーズに安定して応えていくためにも，教職カウンセラーとの連携方法を改めて検討する等，教職支援センターとして，一人ひとりの学生にきめ細かく対応できる新たな体制づくりが望まれる。

２）学年別相談利用数

**表２　学年別相談利用数（2021. ４月～11月）**

| | １回生 | ２回生 | ３回生 | ４回生 | ５回生以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 実数（人） | 0 | 7 | 13 | 39 | 0 | 59 |
| のべ数（人） | 0 | 13 | 35 | 192 | 0 | 240 |

※2021・２月・３月相談利用数（のべ数25名・実数18名）を除く

**表３　学年別相談利用数（2020. ４月～12月）**

| | １回生 | ２回生 | ３回生 | ４回生 | ５回生以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 実数（人） | 0 | 1 | 19 | 19 | 0 | 39 |
| のべ数（人） | 0 | 1 | 23 | 106 | 0 | 130 |

学年別相談利用数（表２）は４回生が大半を占めている。４回生の利用数は，前年度（３回生時）の２月・３月から増え始め，４月から10月頃までが最も多く，全体の大半を占めている。２回生は利用数が少なく，相談内容は実習関係の指導である。３回生は実習関係の指導の他に，10月後半より進路相談が増えてくるが，昨年度（表３）に比べて微増に留まっている。

現在，教職に向けての取り組みについては，学生の自主性に任されているところが大きい。勿論学生は“教師になる”という意思をもち，主体的に取り組むことが大切であるが，周りの人はどうしているのか，自分は遅れていないか等不安を感じている学生も少なくない。しかしこの２年間の２・３回生の教職支援センターの利用数はほぼ変わらず，４回生に比べて少ない状況である。コロナ渦で学生同士の交流も少なくなりがちな状況でもあり，学生は困ったり，迷ったりしても，相談する術が見つかりにくい状況が伺える。

これらの状況を踏まえて，学生が入学してからの４年間，教師になるための道標となるよう，自らが進むべき道を１回生から４回生までイメージを描くことができるよう，今年度「教職課程ハンドブック」の改訂を実施した。

「教職課程ハンドブック」改訂の主な内容としては，学生の１～４年次の各年次における学生の教職への取り組みを「４年間の学びのイメージ」として，

・１年次＝「教職へ理解期」
・２年次＝「教職への土台づくり期」
・３年次＝「教職への準備万全期」
・４年次＝「教職への決断期」　と題して説明している。

各年次に経験しておきたいこと，学びたいこと，身に付けておきたいこと，等確認するとともに，１年次からの経験や学びが一つ一つ積み上げられ，教員採用選考試験でも，教職に就いてからも，将来の大切な土台となることを解説している。また１・２・３年次学生に参加してほしい教職支援センターの支援事業や受験対策支援について紹介している。

**表４　教職応援セミナー【講座内容】**

| 回 | 対　象 | 講　座　名 | 受講人数 |
|---|---|---|---|
| 1 | ２回生<br>７月 | 教育現場で学ぶ<br>～学生ボランティア・教育実習～ | 100人 |
| 2 | ２回生<br>10月 | 教育現場で学んだこと・課題 | 111人 |
| 3 | ３回生<br>春 | ２回生までの振り返りと今後の課題 | |
| 4 | ３回生<br>10月 | 自己分析・自己 PR を考える | 130人 |
| 5 | ３回生<br>11月 | あなたが目指す教師像～志望理由～ | 80人 |
| 6 | ３回生<br>12月 | 教員採用試験に向けて<br>～基本的なマナーを知る～ | 48人 |
| 7 | ３回生<br>１月 | 面接<br>～思いを伝える～ | |

また，学生一人ひとりが各年次に感じたこと，学んだこと等を振り返ることを通して，自らの成長に気づき，自ら課題を見出すことを大切にした。併せて「育成する教職志望の学生像」や「教職という仕事のおもしろさ・やりがい」「教員養成の思い」を追記し，学生の教職への理解，教職支援センターへの理解が進むよう努めた。

２・３回生対象に新たな試みとして，教職課程ハンドブックに加えて教職支援センター支援事業として，特任教授，教職カウンセラーによる「教職応援セミナー」（表４）を今年度，新たに計画・開講した。

２回生対象に２講座，３回生対象に４講座

開講した。（第３回は来年春開講予定・第７回は今後の開講予定）学生が受講しやすいよう，昼休みの時間に30分間，１講座につき各２回実施した。

コロナ渦の時期を考慮し，実施形態は Zoom と対面を活用した。

結果，多くの学生が教職応援セミナーを受講し，学生の教職に対する一定の興味，関心に繋がったと考えられる。しかし興味・関心に留まらず，教職を目指そうという気持ちが強くなるような働きかけも大切である。講座回数を追うごとに参加人数が減っていることも考慮し，今後検討が必要である。

以上，相談利用数の少ない２・３回生を対象に，今年度新しい試みを実践してきた。これらの取り組みを通して，２・３回生においても必要とする学生が“教職支援センターに行こう”“教職支援センターに相談しよう”と頭にすぐに浮かぶよう，共に歩むパートナーとして早い時期から学生との距離を縮め，寄り添う努力を重ねていくことが大切である。またこの２・３回生における取り組みが，４回生に繋がることを踏まえて，学生のニーズに応える支援内容を考えていくことが重要であると考える。

## ２．相談内容について

### １）相談内容別利用数

**表５　相談内容別利用数（2021. 2 月～11月）**

| | 個人面接指導 | 集団面接指導 | 文章添削指導 | 進路相談 | 実習関係 | 模擬保育 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| のべ数（人） | 141 | 33 | 2 | 20 | 65 | 4 | 265 |

**表６　相談内容別利用数（2020. 4 月～12月）**

| | 個人面接指導 | 集団面接指導 | 文章添削指導 | 進路相談 | 実習関係 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| のべ数（人） | 84 | 10 | 7 | 18 | 11 | 130 |

今年度の相談内容別利用数（表５）をみると，昨年度（表６）に引き続き個人面接指導が一番多く，のべ141人であった。これは昨年度同様コロナの影響により，教員採用選考試験において集団面接や集団討論を中止し個人面接を実施する自治体が多かったこと，Zoom を活用した面接指導により，学生は比較的気軽に臨むことができたことも影響したと考えられる。

### ２）各相談内容について

面接指導では，今年度１人当たりの指導時間が短くなったことで，より集中力をもって指導ができ，適当であった。学生もとても真面目に面接指導に臨み，どの学生も一定の成果があったと思われる。

学生指導については，学生の個性を大切に，一人ひとりに応じた指導を通して，学生の夢が叶えられるよう真摯に取り組んできた。しかし同時に試験対策としての指導の難しさや限界を感じることがあった。こんなとき，学生情報を共有し，その対応について意見交換を行う等，教職支援センターとしての横の繋がりも大切であると感じた。教職支援センターでは，多様な分野での経験をもつた教員が在籍している。各々の専門性に加えて，多角的な視点をもつて学生を一丸となって全員で支えていく指導体制が，今後の学生指導に活かされると考える。

教員採用選択試験での実施は少なかったものの，今年度（表５）は集団面接指導を希望する学生が多かった。集団面接指導では他者をみることで，視点も変わり，新たな学びに繋がることが多い。今年度この機会を設定できたことは，学生の学びに繋がったと思われる。ただ幼稚園・保育所・こども園分野においては，対象学生があまり多い状況では無く，人数を集めることに毎年苦慮する状況である。集団面接や集団討論の経験が全く無く本番に臨むことにならないよう，本学小学校教諭，中学校教諭希望対象学生や，他大学の幼稚園教諭・保育士希望対象学生との交流を模索する等計画できればと考える。

また今年度（表５）模擬保育の指導を希望する学生があった。模擬保育では目の前に子どもが居ると仮定し，導入を含めてピアノ演奏や手遊び，絵本読み等を行う。学生は教育実習，保育実習での経験を通して保育の基礎は理解しているものの，これで良いのか不安になっていたり，人の前で保育を行うことに大変緊張している学生が多い。指導者として見ること，聞くこと，指導を行うことも大きな役割であるが，学生同士で見せ合ったりする経験も貴重である。人数が揃うときには，是非活用していきたい。

### ３．今後の課題

教職支援センターを利用する学生の殆どが，公立採用試験を受験する学生である。しかし幼稚園・保育所・こども園分野では，公立か私立かどちらを受験しようか迷っている学生，公立を受験したが合格が叶わず私立を受験する学生，私立受験を考えているが，何処で面接練習等すべきか分からずセンターを訪れる学生等，毎年度私立園を受験する学生（2021度 実数10名程度）の利用もある。私立園を受験する場合に留意すべきことや面接対策指導等，私立園ならではの状況もあるので，学科や他の部署とも連携して取り組める体制づくりが必要であると考える。

教職支援センターは，特任教授，教職カウンセラー各々の専門性を十分に活かしながら学生に向き合い，併せて教職支援センターとして共に更なるスキルアップを目指し，学生指導に臨みたい。